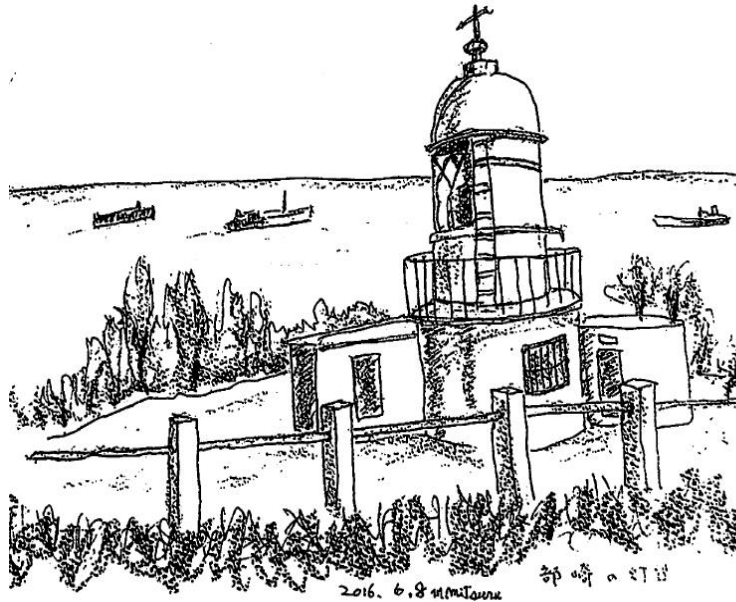


週報2021年7月11日



2021年教会標語聖句

見よ。わたしは新しい事をする。
今、もうそれが起ころうとしている。

イザヤ書43章19節

シオン教会信仰指標：“イエス様と共に歩む”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2021年7月11日

ピアノ：赤松眞佐子 姉 オルガン：力丸勝子 師

司会・メッセージ 山崎銀次郎 牧師

祈祷	開会の祈り
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和
賛美	新聖歌 231「いさおなきわれを」
祈祷	* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！ *
祈祷	献身の祈り
賛美	新聖歌 267「渴けるわれは上より賜う」
賛美	コーラス 27「あなただけがわれらの神」
聖書朗読	エペソ人への手紙 3 章 1-9 節
説教題	「奥義の実現」
祈祷	御言葉の応答の祈り
頌栄	「主の祈り」
祈祷	祝福と派遣の祈り

交わりの三省

- * 互いに愛し合っていますか
- * 互いに赦し合っていますか
- * 互いに祈りあっていますか

説教要約

エペソ人への手紙 3 章 1-9 節 「奥義の実現」

①囚われるか、捉えられるか

エペソ人への手紙は獄中書簡です。ローマの獄中でこの手紙を書いたと言われています。私達が現在イメージするような牢獄ではなく、家に軟禁されていたようです。訪問客の面会はある程度、許可されていたようですが、外出等は出来ません。つまり彼は物理的に自由な状態ではない、というのが一つのポイントです。

パウロは自分の事を「キリスト・イエスの囚人」と紹介しています。彼はこのように自分を表現する事で、エペソの信徒の人達を励ましています。「自分は物理的に不自由な状態ではあるが、キリストにあって自由とされている」。「愛国主義者や偶像礼拝者による迫害、教会の中で、ユダヤ人と異邦人の確執、そのような状態にあってもあなた方はキリストにあって自由である」とパウロは励ましたかったのです。

パウロはピリピ 3:12で「キリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです」と言っています。私達が今日、ここで学ぶべきことは、問題に囚われない秘訣です。その秘訣とは、「自分は恵みによってキリストに捉えられた」事を知ることです。よみがえりのイエス様は常に一步前にいて、私達の手を引いて下さる方です。私達がすべき事は、その手にひかれて前に進むことです。主による自由を知る為に大切な事は求め続ける事です。

②キリストに共に連なる

今日の箇所の鍵となる言葉は“奥義”です。エペソ書で奥義と言う言葉は8回使われていますが、今日の箇所(3:1-9)で5回使われています。つまり今日の箇所はキリストの“奥義”について強調しています。そしてこの奥義についてパウロは“福音によって異邦人もユダヤ人も一つの体に連なった”と説明しています。

この事についてパウロは異邦人も、ユダヤ人も共に福音という計り知れない価値のあるものを一緒に相続した、と説明しています。パウロはエペソ 2 章後

半から、キリストによって敵意という隔ての壁が壊された事を伝えています。(14-22)そして 3 章から、「そういうわけで」と続いています。つまり、文化の違い、環境の違い、そこで構築された個性の違いを超えて、キリストによって一つに連ねられ、平和の実現の為、互いに愛し合う関係へ招かれた事を、パウロは秘められた奥義として伝えています。

今日、私達に投げかけられる質問は「私達が追求するもの」です。時々、私達は問題の追及、相手の粗探しの追及、そして自分の弱点の追及に走り、本来の成すべき事を見失う時があります。大切な事はキリストの愛を追求する事です。十字架を追求すると言う事は重荷を十字架に降ろし、愛と赦しを追い求めると言う事です。私達の魂はキリストの愛と赦しによって解放されます。主の恵みを追い求め続けましょう。

③奥義の実現に向かって

パウロがこの手紙を書いている目的の一つはエペソの信徒達を励ます為です。問題の中にあって落胆しないように信仰を励ましています。(3:13)彼らが抱えていた問題は外面の問題(迫害、仲違いした様々な原因等)と内面の問題(不安、怒りや憎しみ、葛藤)がありました。そこでパウロが与えた励ましとは内なる人が神によって強められ、私達が奥義の実現に努める事です。

言い換えると、奥義の実現とは、神が一方的な恵みによって一人一人を引き合わせた下さった事、互いに愛し合い、赦し合って平和を実現させてく事、謙遜にへりくだる事で互いに仕え合い共同体の絆が強固にされていく事です。奥義の実現に努める事があらゆる問題に対処する秘訣だと、パウロは言っています。キリストの恵みにより、奥義を世に明らかにすることが私達の委ねられた使命です(II コリント 5:20 節)

私達の人生経験を豊かにすることで問題の対処法を学びます。それは成熟するために必要不可欠な事です。しかし愛の問題、平和の問題に対処する方法を人は知りません。パウロはまずそこに目を向けるように手紙で促しています。知っている事、出来ているという自負が陥る罠があります。聖書は謙遜に御言葉を求め実行する事を勧めています。弱い私達を支えて下さるのが御霊の力です。奥義の実現、すなわち平和の実現に向かって主を追い求め前進して参りましょう。